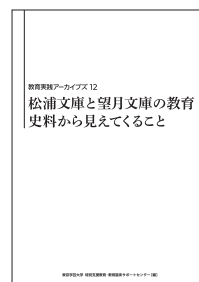


教育実践アーカイブズ 12

松浦文庫と望月文庫の教育史料から 見えてくること

編者・発行 東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター
著者 米田俊彦（お茶の水女子大学名誉教授） 高橋陽一（武蔵野美術大学教授）ほか
ISSN 1349-1946
製版 モリモト印刷株式会社 42頁



掲載論文

■ 米田俊彦 松浦文庫の教育史料から見えてくること

（内容） 松浦文庫は、松浦鎮次郎（1872-1945）を中心とする教育史編纂会が、1938-39年に『明治以降教育制度発達史』を刊行し、会の解散に際してその図書・資料を東京府大泉師範学校（東京学芸大学の前身校の一つ）に寄贈したもの。『発達史』全12巻は、戦前の教育制度全体について精通していた松浦がほぼひとりで書き上げた。だが、どのように執筆・編集したのかは不明だった。松浦文庫の資料を検討すると、松浦が最初の原稿を執筆したうえで、稿本によって多くの人が確認し、それをふまえて原稿が修正されて刊行本に至ったらしいこと、つまり、松浦が大きく関与した一方で、原稿をチェックする組織的体制もつくられていたことが見えてくる。戦前の教育制度について文部省の認識を表現した『発達史』に関して、その編纂過程を教えてくれる松浦文庫は、貴重な教育文化財と言える。

■ 高橋陽一 望月文庫の教育勅語から見えてくること—目録未記載卷子4点を中心に

（内容） 望月文庫は、1926年に、東京府青山師範学校（東京学芸大学の前身校の一つ）の創立50年記念事業として師範教育に関係ある図書（往来物、教科書、教育書等）を集めたものである。望月文庫の閲覧が行われるときに、目録には掲載されていない教育勅語（学大所蔵教育勅語）が合わせて閲覧されることが多かったが、その来歴等を明らかにすることが課題として残されていた。高橋論文は、教育勅語を含めた資料4点について、それらの来歴と資料的価値を考察したものである。教育勅語における、原本とは何か、謄本とは何か、原本と謄本の成立の系譜をどのように見るべきなのか。それらの知見をふまえて、学大所蔵教育勅語1点については、教育勅語謄本（明治謄本）であることを新たに論証している。

■ 論文の閲覧は
東京学芸大学リポジトリ
<https://u-gakugei.repo.nii.ac.jp/?>
の検索画面で「松浦文庫と望月文庫」と
入力してください。

■ 松浦文庫と望月文庫の閲覧の
事前申請については
東京学芸大学附属図書館 HP
<https://lib.u-gakugei.ac.jp/collections/use>
をご覧ください。